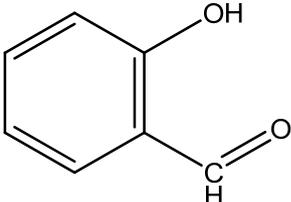


2	CAS 番号：90-02-8	物質名：サリチルアルデヒド
化審法官報公示整理番号：3-1183（ヒドロキシベンズアルデヒド）、3-2660（ヒドロキシベンズアルデヒド） 化管法政令番号：1-136 構造式： 分子式：C ₇ H ₆ O ₂ 分子量：122.13		
		

1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は 4.9 g/L(25°C) で、分配係数（1-オクタノール/水）（log Kow）は 1.81(pH=5.4)、蒸気圧は 0.593mmHg(=79Pa)(25°C) である。生物分解性（好氣的分解）は分解性が良好と判断される物質である。また、加水分解性は安定（5 日間、50°C、pH4, 7, 9）である。

本物質は、化学物質排出把握管理促進法第一種指定化学物質に指定されている。主な用途は、農薬や医薬品の原料である。平成 25 年度における製造・輸入数量は 1,000t 未満、化管法における製造・輸入量区分は、100 t 以上である。

2. 曝露評価

化管法に基づく平成 25 年度の環境中への総排出量は 0.001 t となり、すべて届出排出量であった。届出排出量の排出先はすべて大気へ排出されるとしている。届出排出量の主な排出源は、プラスチック製品製造業のみであった。多媒体モデルにより予測した環境中での媒体別分配割合は、環境中及び大気への推定排出量が最大の地域を予測対象とした場合には大気が 91.4%であった。

水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度（PEC）は、公共用水域の淡水域では 0.013 µg/L 未満の報告があり、海水域では概ね 0.013 µg/L 未満となった。

3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における 72 時間 EC₅₀ 4,760 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC₅₀ 2,600 µg/L、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の 96 時間 LC₅₀ 1,620 µg/L、その他の生物ではアフリカツメガエル *Xenopus laevis* の胚の催奇形性における 96 時間 EC₅₀ 5,500 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度（PNEC）16 µg/L が得られた。

慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害における 72 時間 NOEC 550 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 126 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく予測無影響濃度（PNEC）1.2 µg/L が得られた。

本物質の PNEC は、甲殻類の慢性毒性値から得られた 1.2 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域、海水域ともに 0.01 未満となるため、現時点では作業の必要はないと考えられる。

有害性評価（PNEC の根拠）			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/PNEC 比	PEC/PNEC 比による判定	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)			
甲殻類 オオミジンコ	慢性	NOEC 繁殖阻害	100	1.2	淡水	<0.013	<0.01	○	○
					海水	<0.013	<0.01		

4. 結論

	結論	判定
生態リスク	現時点では作業は必要ないと考えられる。	○

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要がある、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない

(○)：情報収集等を行う必要性は低いと考えられる、(▲)：情報収集等の必要があると考えられる、(－)：評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す